

マスターズワールドカップ2022東京大会 開催の近況報告

2022.4.15

現在、ワールドマスターズホッケー (WMH)と開催国組織委員会 (HNOC) は、2022年10月19 (水)～10月29日 (土) の日程で、標記大会開催の実現に向けて共同で準備を進めています。

国内外の情勢を俯瞰しますと、欧米社会では国内外の移動の自由を含めて、日常生活を取り戻しています。しかし、ロシアのウクライナ侵略により、西欧では緊張感が膨らみ、東京大会の参加意欲に悪影響を及ぼす懸念もあります。一方、日本国内ではコロナ感染者数はピークアウトして、まん延防止策は解除され、普通の生活に戻りつつありますが、海外からの入国制限は全面的に解禁されていません。

このような環境下、WMHとHNOCは東京大会の開催実現に向けて最大限の努力を実行中ですが、東京大会準備の最新情報を以下の通り、報告させていただきます。

1. 参加申込状況 (4月5日WMHからの連絡)

国別大会 → 11ヶ国29チーム

SOM 部門 → 7チーム

合計36チームがエントリー

2. 参加登録の新提案 (登録期限の延期と優遇措置)

WMHとHNOCは協議のうえチームの登録条件を見直し、下記の通りエントリーし易い新たな提案をWMHのホームページに掲載しました。

1) 登録期限 4月30日 (従来の3月15日を延長)

2) 登録料支払い期限 5月31日

3) 登録料納入後7月31日までにチーム事情で参加を辞退した場合、全額返金を約束

上記の新提案により、今後エントリーチームが増える可能性はありますが、一方で参加を辞退するチームが増えると、WMHは東京大会の中止を判断することも考えられます。

3. 外国人の入国ビザについて

選手・役員等大会関係者の日本入国ビザ取得の手段として、JHA が受入責任者となり、大会関係者の健康確認を一元管理する仕組み（ERFS/エルフス）が活用できることが明らかになりました。（スポーツ庁に確認済み）

このエルフスの仕組みの活用について、WMH とは情報共有しています。この制度の活用で外国人の入国制限のハードルはクリアー出来る見通しとなり、エントリーしやすい状況になりました。加えて、政府の水際対策の方針として”今後は段階的に人の往来を増やすとの声明”は朗報です。

以上